

印り付し者	北加市市太目	三十三字子十月生	石川	字加	前	手	東	右	理	市	花	引	倒	者	山	城	國	志	石	君	花	谷	村

京都地方裁判所

山城國愛宕郡花岩村

字八棟平民京都寄寓

向畑治三郎

右露國皇太子殿下ノ車夫ニテ
宛漢ヲ引倒セシモノ

加賀國江沼郡庄村

字加茂村平民京都寄寓

北賀市市太郎

右希臘親王殿下ノ車夫ニテ
刀ヲ抜テ切付ケタルモノ

天保十一年

此は幕府に
可成固執する者

靈園里太子遭
難之際果行者
引倒りて人

夫系之ヲ切付ケル
人力車夫ノ姓名
旅ノ時ニ由ル由
リ、且年々有
乃且周ニ有也

京都地方知事
加太邦定

多面内蔵

御下付書成候様
御下付書成候様

御下付書成候様
御下付書成候様

一上奏書類ノ件名ハ上奏前ニ西御大臣、御中
上可被下候但普通ノ分ハ上奏前ニ申上候儀難
出来場合有之候了上奏後ニ御申上ケ相成候テ
モ可被下候亦同大臣ハ是非共上奏前ニ一應不申
上候事ハ不都合ノモ有之候時ハ件名ノ下ニ其
旨書加、可差候儀
一上奏書類ハ上奏箱ニ錠ヲ却シ侍従長若クハ侍
従、御差出可有之候

但當番官内書記官ハ差出相成候事モ可被

一上奏箱ノ錠ハ貴官御手元、御留メ置相成度以
後ハ東京ニテ錠ヲ却シ一々錠ハ相階不申儀
一御署名又ハ御裁可等相階御下付書成候ハ、

上奏箱ノ係属官、御渡シ 即日帰東返様御
命シ相成度候

一御署名有之書、御墨ヲ乞ヒ候儀、便宜ニ任レ
常京還幸ノ後相願候間御署名ノ係シテ御返シ
相成度候

一御前、若シ御留ノ置相成候書類有之候、侍候
長考ニ就キ其様様御伺ノ上其旨御申越 相成度
候

一上奏箱御差出ノ節東京ヨリ持来リ侍居リ候越
モ御申入置相成度候

存案点新聞紙

存卷之新聞紙

関之緊急存卷之

義

勅裁印多属多

田書記及差所
之可然由上奏法
以斗以名無此
事件、伊藤里由
為伯、兼相後
變了決才、有
存於此奏問、前
為伯、以懷識被

上皇法皇得志意

良也此等事

教具

育吉 正氣

西郷内務大臣

青木外務大臣

追々松浦長春殿

島地、必用有之、
可成速、以返了、
良、以如、命、即、
行、

島地、必用有之、
可成速、以返了、
良、以如、命、即、
行、

記

一内閣改訂暗号符

一

右内閣書記友長ヨリ内務大臣、关付
ノ分、少司馬ニ相成、正ニ落書、一仕候、別封
旧暗号符及、少司馬返付、余、少司馬、
朱印、度候也

明治廿五年五月十八日

大塚由五臣秘書

多田内閣書記長殿

封

旧暗号符

今更中

用紙書巻紙

御用有之候條明十七日午前十時四十分迄
朝可有之候也

五月十六日

内務大臣仙臺西御注道

陸軍大臣仙臺大山教殿

各一冊

陸軍中將子爵島本勲之助殿

ム	ラ	ナ	子	ツ	ソ	レ	タ	ヨ	カ	ワ	シ	ル	ス	リ	チ	ト	ヘ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ	ン	ス	セ	モ	ヒ	シ	ミ	メ	ユ	キ	サ	ア	テ	エ	コ	フ	ケ	マ	ヤ	ク	ノ	ウ
イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	ヲ	カ	ヨ	タ	レ	ソ	ツ	子	ナ	ラ	ム	ウ	ノ	ク	ヤ	マ	ケ	フ	コ	エ	テ	ア	サ	キ	ユ	メ	シ	ヒ	モ	セ	ス	ン		

明十七日

徳川幕府

付

各々様へ

五月廿一日

高橋中納言

白紙

五月廿一

高橋中坊

西の白鳥の歌

元

一封状

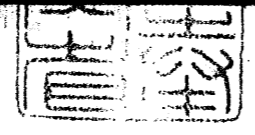
三三

折紙の行也

書有十

土山橋子

高橋中



事は申下り申す所は申出の如し
之中今七條條事申出別紙に在り
申事申出所は申出申す所は申出
之、申事申出の如し申出申す所は申出
申事申出の如し申出申す所は申出
申事申出の如し申出申す所は申出
申事申出の如し申出申す所は申出
申事申出の如し申出申す所は申出

申事申出の如し申出申す所は申出
申事申出の如し申出申す所は申出

由國申出の如し申出申す所は申出

長崎州 申出

長崎州 申出

長崎州 申出

長崎州 申出

長崎州 申出

長崎州 申出

西井義純第二回調書

安濃津地方裁判所檢事局

本月一日津田三藏が自分宅ニ来リ種々ナル談話
 中三藏ハ今度露國皇太子が来ラレルナガ支
 シニハ西郷モ共ニ歸ル由西郷が歸シハ我々が貰フ
 クル勲等モ剥奪サルベシ困ツタガト話シケル
 ニ付自分ハ滋賀縣ノ駐在所ニハ新聞誌ハ無
 キカ西郷云々ノ虚説タルハ近頃ノ新聞誌ハ明
 瞭ニ居シリト申シタル處三藏ハ駐在所ニハ新
 聞ハ無イガド一モ實事ナラント思ヒリナゼナシハ
 露國ノ皇太子が日本ニ御出ルナラ先ツ東京ニ御
 出ニナルベキニ鹿児島ニ一番ニ行カルハ西郷
 ルが為メナルベシ一休表門ト裏門ト取違ヘタル
 様ノ新ナリト申シ三藏ハ西郷歸國ノ一ヲ信シ

居ル様ニ相見、其新ハ支レ切リニ相成タル
ニ有之候
右讀聞カセタル處相違ナキ旨陳述スルヨリ記
名押印セシム

三重縣巡查

町井義純

明治二十四年五月十三日安濃津地方裁判所上
野支部ニ於テ

安濃津地方裁判所檢事正 渡邊 融

安濃津地方裁判所檢事局書記 西村 岩之進

任 行政裁判所評定官從四位勳四等渡邊千秋
任 滋賀縣知事

任 滋賀縣知事從四位勳四等渡邊千秋
勅任官二等

任 岡山縣警部長正六位勳七等龍岡信熊
任 滋賀縣警部長

任 滋賀縣警部長正六位勳七等龍岡信熊
敍 奏任官五等

電報譯

長崎府志事

内務大臣

代理尾城書記長

平のりきとるふりすもる

ウナニカ

露艦コレエツ今朝ハ特入港直ニ中村
冬事官ト共ニ訪問ニ概致ノ意ヲ述ベ且
来港ノ用向ヲ簡ク本日オデマヨリ着ラス
ベキ皇宮ヨリノ御使ヒ郵便物ヲ待受ケ
直ニ神戶ニ向ケ帰港ノ旨御使ハ御書翰
ヲ携帶スルモノ由石炭食料トモ添奉ル
外買入レガ全体ノ損様至極總カニテ我帝
室ノ御待遇ニ感ヒ我ノ慰問ヲ喜ヒ扱


又知事市長御慰問ノ為メ出発セシコトヲ
話シテ之ニ喜ビ居ル

西川内務大臣 多根少助次友

五月廿五日午後八時

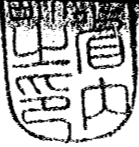
深山急務部部長正八位勲七等守訖屈信
熊ノ瀨賢勝部部長後任ノ権揮平仕後任
知事ハ後至キ秋ノ整理方後ニ申立同人
ハ終局友ニ付唯々同大臣ヨリ内言ハ先セ
申ス

[Empty lined area for writing]

金指三因卷一
但事却行章中實按科
古之須收也
元正五年六月二日
字の事
田中


田中

宮内省



明治會愛第一六六號

三七八

唐松尾用拾、事
 在岸般東都、行幸濟、
 言、在、
 業、
 式、
 四、
 官、
 田、
 深、
 官、
 田、
 深、

門關

唐松尾用拾、事
 在岸般東都、行幸濟、
 言、在、
 業、
 式、
 四、
 官、
 田、
 深、
 官、
 田、
 深、

東京

大本樞密議長

京都

徳大寺侍従長

帝國憲法第八條ニ依リ新聞紙雜誌又ハ
文章ノ圖文ノ件其院ニ御諮詢アリ右勅令
案ハ内閣ヨリ受取ル